

令和6年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立南小学校
実施日	令和7年2月

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	評価の説明及び改善策として考えられること
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	◎校長の目指す学校経営ビジョンが、組織として浸透し、確実な成果となって表れている。 ◎南小だよりや校長指示伝達の資料を通して明確に提示されているので理解しやすい。 ◎学校公開や学校HPの更新が頻繁に行われ、学校の様子を伝える機会を設けることにより、学校を核とした家庭・地域の学校経営共同参画意識が醸成されている。	A	◎学校教育目標をあらゆる場所・機会に明示して、組織的・計画的に達成しようとしている。 ◎学校だよりを見ても分かる通り、学校として計画的に学校教育に取り組んでいるが大変よい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	◎危機管理の「さしすせそ」を基本に危機管理意識が全体に浸透しており、迅速かつ丁寧に組織的な対応がなされている。 ◎安全主任を中心に毎月、教室や廊下の安全点検を実施している。また、西入間署から指導者を招き、不審者に備えた教員の訓練も実施できた。 ◎校長をはじめ、安全主任や教務部の職員を中心に職員が下校指導や登校指導、日々の安全の様子を組織的に見守っている。	A	◎教職員による子供たちの登下校時の安全性・見守り・指導が積極的になされている。 ◎実践を通して危機管理の意識が確実に浸透していると感じる。 ・災害時にはパニックになるので、年に何回かの訓練が必要である。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	◎組織として業務改善に向けた見直しの具体的な取組がよく行われている。一方で「働き方改革」を行う上で、「子供と向き合う時間の確保」「教職員一人一人の資質・能力の向上」という重要な視点を見失ってはならない。 ◎教職員一人一人の資質・能力や経験値の違いから同じことを行っても、要する時間や負担感の差は当然ある。常時、退勤時間の遅い教職員は意識改革と働き方の見直しが必要である。 ◎今年度から、業務終了メッセージ機能付き電話の活用や、退勤の呼びかけ放送、退勤時刻の可視化を図る策等、改善の兆しが見え始めている。 ◎県が進めている「カエル会議」など業務改善についての組織を立ち上げ、さらに業務のスリム化を図るための手立てを計画的に進めていけたらよい。	B	◎GIGAスクールやICT教育を取り入れ、先生方の負担も少なくなり、働き方改革になっているのではないかとと思われる。 ◎「人」を育てると重要な職務の性格上、計算通りにはいかない難しさも多々あると思うが、電話の音声機能の活用など、種々の取組を通して改善への意欲が感じられる。 ・教職員の表情が明るいので、大きな問題はないと思われるが、第三者が客観的に評価できるデータ(アンケートなど)があるとよい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	A	◎学校研究としての「南小・授業力向上プロジェクト」は、様々な視点で他校でも見られないような大きな成果を挙げており、大変有効であった。 ◎学力向上のための講習等で感じたことや日々の学習に向かう子供たちに対して教職員間で情報共有を行い、教育観を確かめ合っている。 ◎授業を見せる・見ることがシステム化され、授業力向上がどんどん進んでいる。同僚性や主体性も高められており、今後も継続していきたい。	A	◎参観時、タブレットと黒板を上手に使い分けている教師の工夫が見られた。 ◎授業参観を通じ、先生方の授業が充実して素晴らしいと思う。 ◎「南小授業力向上プロジェクト」は画期的で素晴らしい施策であり、今後もさらに充実させ推進していただきたいと思う。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	◎学校教育全体を通して、道徳教育や人権教育が意図的・計画的に行われている。 ◎11月12月と特別授業を行ったり、家庭を巻き込んだ取組を行ったりと、日常の道徳教育以外でも工夫をし取り組んでいる。 ◎道徳、学級活動の実践が学級によって差が見られる。学校として、着実な実践が行えるようになっていく必要がある。	A	◎机の形を自在に変えて、子供たちに自由闊達に議論させる授業が行われていた。 ◎授業中の子供たちの顔に喜びが溢れており、授業が大変充実して良いと思う。 ◎着実に実施されている様子が、学校だよりから伝わってくる。
	6	児童生徒は、時と場に応じた態度をとることができ、意欲的に学校生活を送っている。	B	◎他校にはない「規律ある態度」2回の調査や啓発・指導など、学校全体で統一した指導がよく行われている。 ◎定期的に行われる生徒指導委員会やなかよしアンケートで児童観の共有が頻繁に行われている。 ◎あいさつ、返事には課題が見られる。廊下や階段の通り方がとても騒がしいので、公共の場での過ごし方を継続して指導する必要がある。 ◎時と場に応じた態度として「言葉遣い」は気になる。私たち教員も、言語環境を整えることについては、もっと意識を高める必要があると思う。	A	◎児童アンケートで「学校は楽しい」の肯定的回答が95%以上あるのは素晴らしい成果と考える。 ◎廊下で子供たちに会うたびに会釈をしてくれるのを見ても、教育が行き届いていることが分かる。 ◎「規律ある態度」の調査を独自に実施してよい。朝の交通指導での児童の反応も良い。 ・あいさつについて、児童保護者共に課題が残ると自覚していることが分かる。さらなる指導を。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための研修や活動に積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	◎風通しのよい職場環境や教職員事故への当事者意識を醸成する研修等が丁寧に行われており、教職員の意識の高さも窺われる。教職員事故ゼロ。 ◎事故防止啓発の資料が配られたり、倫理確立委員会を行ったりと、職員への啓発活動が行われている。 ◎短時間で効率よく研修ができているが、倫理確立委員会を昨年、一昨年と実施してきたように、ボトムアップ型で実施できるとなるとよい。そうすると当事者意識をさらに醸成することができると思う。	A	◎教職員事故ゼロは継続して欲しい。 ◎教職員の皆さん同士の仲が良いことが事故や不祥事を起こさない要因になっているのではないかと考える。 ◎倫理委員会、倫理確立だよりの発行は、風通しの良い職場づくりに貢献していると思う。 ・登下校見守りなどで教職員が自転車に乗る場合のヘルメット着用率をもう少し上げたい。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にできる態度で接している。(市共通項目)	A	◎学校経営方針「明るく、元気に、爽やかに、全ての対応を親身になって丁寧に」が浸透しており、ほとんどの児童対応・支援が丁寧に行われている。 ◎今年度より、校内適応指導教室が整備され、効力を発揮している。 ◎不登校対策においては、関係機関と積極的な連携が図られている。	A	◎教職員から生徒への呼び掛けで「さん」付けが徹底されている。 ◎校内適応指導教室の設置はすべての児童が学校へ通える一助として意義あるものとする。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。(市共通項目)	A	◎計画的に指導者を招聘しての研修や特別支援教育コーディネーターを2人配置する等、先進的に体制の充実に努めている。 ◎特別支援学校や坂戸ろう学園との交流は、児童にとって非常に良い。継続できるとよい。 ◎くすのき・さくら学級において、焼き芋体験をはじめ様々な自立活動の学習を、保護者を招き4学級合同で実施することができ、大変有意義であった。	A	◎子供たち一人ひとりの状況に応じて、丁寧な授業が行われていることが分かる。 ◎特別支援学級の児童の表情の明るさにいつも心を打たれます。先生方の努力の成果だと思います。他校との交流は是非継続していただきたい。 ◎配慮を要する児童への先生方の対応がとても自然に展開されており、児童のインクルージョンの醸成はこういった日常から進んでいくのだろうと感銘を受けました。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	◎日常の取組に加え、今年度は長きにわたり実現できなかった特別教室の準備室や倉庫等、全員で整備することができた。備品の管理等も定期・随時の点検を通じ、よく整えられている。 ◎職員だけでなく、スクールガードリーダー、地域見守り隊、保護者の旗当番など、多くの方々のおかげで安全に登下校することができている。	A	◎繁忙な業務の中での整備の実現は、安全・安心な教育環境づくりに効果が期待できる。 ◎下校時、先生方が児童たちと一緒に帰っているのを見て、感心した。 ・グラウンドの強風時の砂埃がひどい。子供たちの健康にも影響すると思われるので、何らかの対策が必要である。 ・下校直後に校門から出てくる児童の様子を職員が見守れるとよい。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	A	◎学校教育活動の公開頻度やホームページの内容の充実や更新が積極的になされ、開かれた学校づくりに大きく貢献しており、保護者・地域の学校教育への理解や支援体制が拡大・強固になっている。HPアクセス数70,000件以上は、他に例を見ないほど稀である。 ◎家庭・地域とのさらなる信頼関係構築のため、授業参観だけでなく、様々な教育活動を公開している点は継続できるとよい。	A	◎南小だより、ホームページやマメルを用いての学外情報発信は非常によくなされている。 ◎学校だより、ホームページの充実、開かれた学校づくりに大いに貢献していると思う。 ◎地域の回覧板でも学校の様子を知ることができて、良いと思う。 ・授業参観だけでなく、年1回でも学校公開日が欲しい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	◎延べ80名を超える数々の学校応援団等、保護者・地域の学校経営参画意識が非常に高い。安全・安心の確保、学習支援、潤いのある環境づくり等々、全てが積極的な生徒指導のごとくあらゆる問題や課題の未然防止・早期発見・早期解決に役立っている。 ◎学校応援団の方々によるボランティア活動は、非常にありがたい。学校の環境整備に大きなプラスになっている。	A	◎ありがとう集会や各種学校行事への招待など、ボランティアに対する気配りも適切に示されている。 ◎地域と学校の一体化は教育環境整備に不可欠なものだと思う。ゲストティーチャーの活用もプラスに作用すると思うので、今後も機会を設けてほしい。 ◎各分野の外部指導者を招聘しての授業や講演会、漢字検定等へのボランティアなど学校応援団等地域との連携がさかんである。 ・ボランティアの一部高齢化問題があることに留意が必要。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	◎千代田三校をはじめ、関係の学校との連携する機会を市内では一番多く行っている。 ◎学校運営協議会に児童が進学する2校の中学校長が委員となり、学校経営に参画していることは非常に意義のあることとなっている。 ◎中学校と連携して話し合いをしているが、話し合いだけでなく、あいさつ運動など児童生徒が連携できると良いのではないかと。 ◎中学生の社会体験実習の受け入れや、連合運動会前の陸上競技の指導など、大変有効であった。	A	◎学校運営協議会に2人の中学校長が参画していること、また中学生の体験実習やスポーツ指導など交流の場がいくつか設けられていることは素晴らしい。 ◎生徒指導教育相談担当の学期ごとの学校訪問、校長が学校運営協議会メンバーになっている、学びづくり授業への相互の参観、QU資料の提供など、よく連携できている。